

オンラインせたがや会議 ～みんなで考える多文化共生のまち～ 実施報告

1. 目的

国籍を問わず誰もが暮らしやすい多文化共生社会の構築に向けて、区民同士で日頃から感じていることを意見交換し合うことで、課題や情報を共有し、問題についての認識を深めるとともに、参加者同士の交流機会創出を目的とする。

2. 開催日時

令和2年12月18日（金）午後6時～午後8時

3. 開催場所

オンライン（Zoom） ※意見交換はZoomのブレイクアウトルーム機能を使用

4. テーマ

「日本語支援」について

「日本語支援が必要な方が、世田谷区で住みやすい環境を整えるためには、どのような言語支援が必要だと思いますか？そのために、区・地域住民・当事者ができることは何だと思いますか？」

5. 参加者数

43名

①区内在住外国人 20名

※住民基本台帳より無作為に抽出した1,000名を対象に案内を送付し、参加希望をいただいた方

②区内在住日本人 23名

※区内日本語支援ボランティア団体、過去に区で実施している「日本語サポーター講座」の受講者に案内を送付し、参加希望をいただいた方

6. 全体コーディネーター及び協力者

講師：吉田 千春 氏（イクリスせたがや 代表）

協力：中央大学法学部学生 15名（吉田氏ゼミ生）

区内在住外国籍区民 3名、東京都防災語学ボランティア 2名

7. ワークショップの流れ

①導入・意見交換のやり方

②グループでの意見交換（Zoom ブレイクアウトルーム機能を使用）

一人ひとりがテーマについての対話を深められるよう、少人数（参加者6名、テーブルファシリテーター1名、書記1名、通訳1名）のグループに分かれて意見交換を行う。

Zoomのテキストチャットも併せて活用し、意見を取りまとめる。

③各グループで挙げた意見の発表

参加者全員がZoomの同じルームに入り、各グループで挙げた意見について、ファシリテーターから発表を行う

④講評（まとめ）

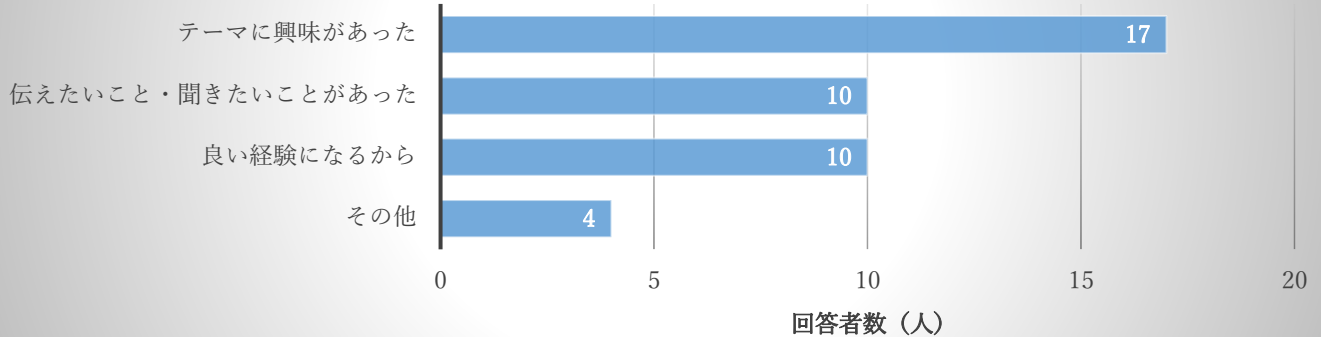
各グループで挙げた意見

日本語支援が必要な方が、世田谷区で住みやすい環境を整えるためには、どのような言語支援が必要だと思いますか。（意見抜粋）

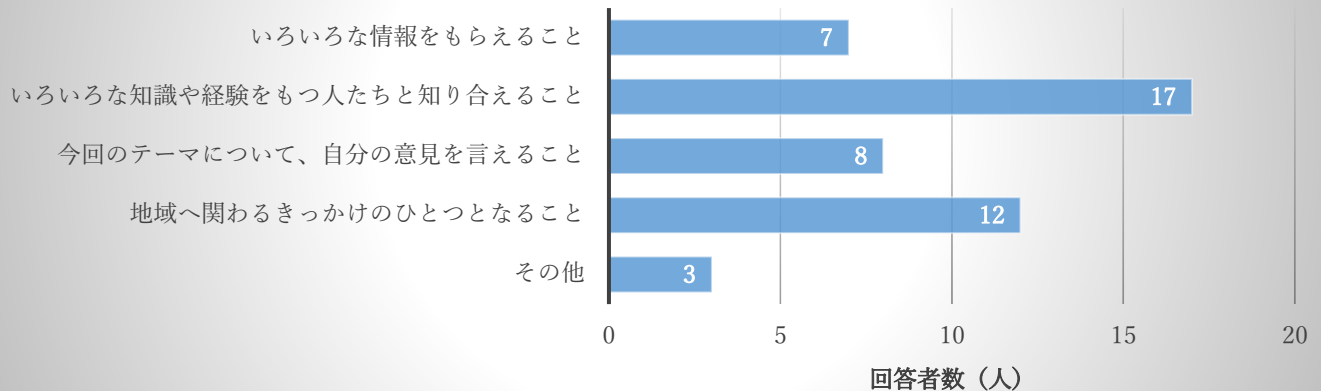
- ・手続き関係の書類には、翻訳をつける。
- ・やさしい日本語での表記を増やす。
- ・やさしい日本語は、簡単な単語で完結するはずの単語を、長々しく説明するとわかりづらくなる。漢字にふりがなをつけたほうが良い。
- ・ウェブでの多言語対応を充実させる。（行政への問い合わせなど）
- ・担当者とメールなどの文字で連絡が取れるとよい。（電話口での会話や音声案内は理解するのが難しいため、疑問点などについて質問したら担当者が回答してくれるチャットなど）
- ・ピクトグラムの普及。
- ・行政手続きの際（特に来日初期）、通訳による対応。
- ・専門的な手続きについて相談できる外国人向け窓口の設置。病院での多言語対応。
- ・ネットをあまり使わない外国人にとっては、日本語教室やボランティア支援などについての情報を得るのが難しい。行政が転入の際に情報提供してくれるとありがたい。
- ・情報は郵便やHPだけではなく、メール（SNS）等で知らせると良い。
- ・多言語による情報伝達（災害時にテレビから流れる情報の多言語化など）やパンフレットの充実。
- ・SNSなどを通してコミュニティ（日本語支援グループなど）を周知させる。
- ・ライフインセタガヤ（外国語版生活便利帳）に、外国人向けの情報を載せる（例）日本語教室の開催案内等。

アンケート集計結果（43人中28人回答）※未回答含む（設問による）

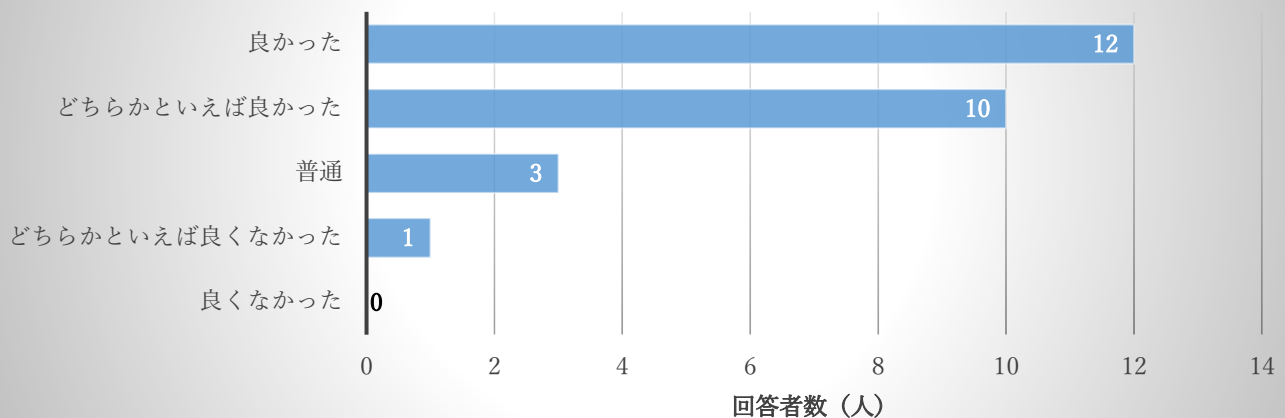
1. オンラインせたがや会議への参加を決めた理由はなんですか。（複数回答可）



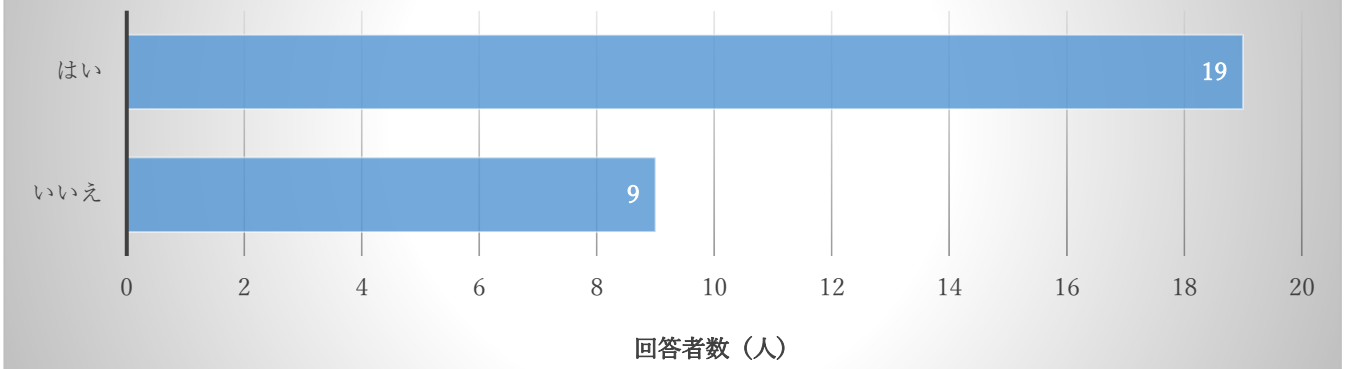
2. オンラインせたがや会議にどんなことを期待していましたか。（複数回答可）



3. オンラインせたがや会議はどうでしたか。



4.多文化共生に関する活動などをしてしていますか。



その他、ご意見やご要望がありましたら、聞かせてください。

【ご意見（抜粋）】

- ・生活、仕事などのテーマで意見交換会をやりたい。
- ・今回の活動を通して、外国の人々の要望と意見を収集でき、世田谷区役所の皆様の熱心さと決意を感じさせて、とてもいい活動だと思う。今後、Zoom 会議やゼミなどを定期的に行い、いろいろな世田谷区の情報や考えを伝えられればと思う。
- ・今回は異文化交流であったが、世田谷区内での言語支援や災害支援、あるいは差別や偏見の問題を議論する団体が何かイベントを開催してほしい。
- ・基調講演→グループワーク→統括（まとめ）が良い進行であると感じた。但し、時間内に 10 グループに分けて効率的に時間管理するのは難しいが、良くやっていただいたと感じる。次回も参加したいと思う。
- ・行政の多文化共生に関する情報発信はどの様になされているのか、行政の担当者もグループに入った方がよかった。
- ・今回の会議で出た外国人参加者からの要望のいくつかを「区」として実現しようとする時、その実現の為の準備や計画立案そして運営などに我々ボランティアを大いに活用してほしい。
- ・在住外国人がとても参考になる意見が出されていたので、是非それらが施政に反映させると良いと思う。
- ・大学の先生と学生さんを活用された進行は話し易くて良かった。
- ・日本在住の外国の方への発信を積極的に能動的に行っていくべきと感じた。わかりやすい発信を「区」にはお願いしたい。
- ・区民として実際にどのように関わられるのかまでは分からなかったのが残念だった。
- ・日本語学習も必要であるが、まず日本に住む上で必要な情報（例えばゴミ出し、学校など）を得ることが難しいという意見があった。
- ・初めて日本に住むにあたり、必要な情報を細かく発信してほしい。（生活習慣に違いがあるため）
- ・日本人のみならず、外国人の方も「やさしい日本語」についてよく知らない、という印象を持った。
- ・国際交流ラウンジを復活して欲しい。地元の人達に外国人に対する意識を変えてもらう、良いツールと思う。